



九州大学の学生たちから太鼓の叩き方を教わる子どもたち

刈谷ロータリークラブから太鼓で元気に

3月24日、愛知県の刈谷ロータリークラブ（吉原孝彦会長）が滝尾幼稚園（古閑榮実園長・81人）に太鼓を贈呈しました。発災当初から、当園に支援をしていた九州大学から情報をもらった刈谷ロータリークラブが何かできないかと考え、地域との交流などができる大太鼓1台と平太鼓8台で支援。吉原会長は「大きくたくさん太鼓を叩くことで、子どもたちだけでなく、保護者や地域の人たちも元気になってもらいたい」と話しました。



1_角場の湧き水 2_復旧した桜坂観音堂

地震で被災した桜坂観音堂が復活

震災でお堂が倒壊した2丁目地区（塩山紘一区长）の桜坂観音堂が完全復旧しました。「地震で倒壊した観音堂をそのままにしておけない」と地域から声が上がリ、区やその他の地域などから寄付を募りました。百年以上前から存在している観音堂には、観音像が6体祀られており、後方には“角場”と呼ばれる場所にきれいな湧き水があります。震災の断水時には、多くの人たちがその水を求め、観音像に手を合わせました。地域のフットパスでは、観光の一役を担っている桜坂観音堂と角場。一度訪れてみてはいかがでしょうか。

地域の婦人会だからこそ！

3月25日、御船町地域婦人会（竹田津和子会長）総会が開催され、約70人が参加しました。総会では、竹田津会長が「震災で傷ついた人の心に寄り添っていききたい」とあいさつ。総会終了後、県危機管理防災企画監の有浦隆さんを講師として、「婦人会活動のあり方」について講話がありました。有浦企画監は「災害時には、“女性目線・子ども目線”を持っている婦人会が必要。予防的避難も徹底したい」と強く語りました。参加した会員たちは、地域における婦人会の重要性を改めて実感しました。



1_婦人会の重要性を語る有浦企画監 2_総会の様子

藍染が熊本県伝統的工芸品指定に

3月20日、県伝統工芸品館で熊本県伝統的工芸品指定書の交付式があり、肥後藍御船工房の福永幸夫さんの藍染が指定されました。昭和54年から始まり、今回で3年ぶり21回目となった交付式では、10人11件が指定。昔から薬草として使われていた藍を、衣服やハンカチ、スカーフなどに時間をかけて丁寧に染め、つくられます。肌に優しく、体を柔らかく包んでくれるのが、藍染の特長です。藍染を始めて66年。福永さんは「指定されてうれしい。次は藍染の後継者も考えながら、頑張りたい」と話しました。



熊本城の復興も願い、藍染に願いをこめた作品



笑顔で水の鼓動を飲む愛飲者たち

水の鼓動新酒祭り

3月31日、御船の酒「水の鼓動」の新酒祭りが街なかギャラリーで開催されました。御船のいさぎにも認定されている水の鼓動は、この祭限定で、ろ過せずに火入れをしない“無濾過生原酒”として登場。通潤酒造(株)12代目蔵元の山下泰雄さんは「いつもよりみずみずしくフレッシュで飲みやすく口あたりのよいお酒となっています」と話しました。祭りをさらに盛り上げるために、割ぼう着を着たガールズバンド“V-zone”の生演奏で会場の熱気は最高潮。参加した田中安男さんは「やっぱりおいしい。みんなと一緒に話しながら、飲むのはさらにおいしい」と笑顔で話しました。



会場を盛り上げたガールズバンド“V-zone”



みんな一緒にがんばり!!



ホールインワン目指して、ナイスショット！

辺田見でグラウンドゴルフ大会

3月21日、辺田見地区（上・中・下）でグラウンドゴルフ大会が下辺田見公園で開催されました。この大会では、御船町元気な地域づくり支援事業の交付金を使って行われており、辺田見地区住民の絆を深め、地域の活性化を目的とし、約60人が参加しました。各ホールでは、好プレー珍プレー連発で参加者は笑顔でグラウンドゴルフを楽しみました。初めて参加した益田都萌さんは「初めてでドキドキした。これからは、もっと幅広い年代で交流できるよう呼びかけていきたい」と話しました。

御船復興支援～植木温泉の足湯体験

3月24日、町スポーツセンター前広場で植木ライオンズクラブ（三嶋俊廣会長）主催による御船復興支援で「足湯・癒しイベント」が開催されました。ライオンズクラブに寄せられた義援金で開催されたもので、植木温泉（約4,000ℓの源泉）の足湯コーナーや山鹿灯籠踊り、無料フードコーナーなどわくわくするイベントで参加者たちは楽しみました。三嶋会長は「心と体を少しでも癒してもらえたら」と話しました。昼からはくまモンも駆けつけ、会場を沸かせました。



さまざまなイベントを楽しむ参加者